

「四国ならではの」国際協力を目指して

独立行政法人国際協力機構四国支部（JICA 四国）

藤野 紀子

JICA 四国は、途上国からの研修員受入や NGO、自治体による途上国での草の根技術協力のほか、教育機関と協働で、生徒・学生に対する開発教育を行なっています。

JICA 四国と四国 NGO ネットワーク（SNN）、四国の 4 国立大学の協働事業である「国際協力論」もそのひとつです。

国際協力論とは

国際協力論は、2005 年に愛媛大学で試行的にスタートされました。その時の受講生は予想をはるかに超え 300 人以上。立って聴講する学生もいるほどでした。その反響が大きかったため、2006 年以降、香川大学、徳島大学、高知大学でも同様の講義が始まり、14 コマ、2 単位が認定される正規講座として現在も続いています。

講座の開設の主旨は「学生が地域社会の構成員であるという認識を高めつつ国際協力活動への参加意識を強めていくこと」。

受講する学生は、国際協力実践者から生の国際協力の話を聴いたり、国際協力理解のためのワークショップ、途上国の研修員も加えたグループディスカッションなどを行なったりしています。2008 年度には、学内の講座では飽き足りず、より深く国際協力について学びたいという学生が、合同で合宿に参加しました。

講義カリキュラムや受講対象者等は、各大学の特性や地域リソースなどに応じて独自に設定することになっています。また運営については、各大学担当教員、各県に配置されている JICA 国際協力推進員、および四国 NGO ネットワーク（SNN）※のメンバーの連携により進められています

2008 年度の各大学講義概要

	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
対象者	全学部の学生 高校生、一般市民	全学部 1～2 回生	専門課程学生（昼間主・夜間主 2～4 回生）、NGO 関係者や一般市民	全学部 1 回生 定員 60 名限定
登録者総数	徳島大学学生：86 名 高校生：7 名 一般者：5 名	227 名 単位取得（207 名）	236 名 単位取得（168 名）	85 名（大学生 61 名、 高校生 24 名）単位取得 （51 名）
講義	前期 15 コマ	前期 14 コマ	前期 15 コマ	週末を使った集中講義 （4 日間）
講義の目標	社会に積極的に寄与する公共的なマインドを持ち、国際的な視野と知見、かつ四国徳島の在住者として地域に根ざした視点も備えた人材を、「国際協力」というテーマを通して育成する。 国際協力の理論と実践について地域を得、意義や課題について考察し、自らも行動する意欲を高める。	① 国際協力の現状と課題を知り、具体的な実践例に基づいて、国際協力の多様なあり方を知る。 ② 自分が成果の様々な問題や国際協力と確かにつながっていることを理解する。 ③ 香川・四国という地域から行う国際協力活動の意義や魅力を感じ何らかの形で関わる。	四国に拠点を置く国際協力団体の活動報告を通して、国際協力の意義やあり方、特に、地域発の国際協力のあり方についての理解を深める。	積極的に考える力、自分の考えを表現する力、人の話をきちんと聞く力、分からないことにもチームで取り組む力、地域や海外に飛び出してチャレンジしてみる力の養成を目指す。

※四国 NGO ネットワーク (SNN) とは

四国に拠点をおく NGO の連携を深め、発展させていくための団体です。

2001年3月にJICA 四国が開催した「四国地区 NGO—JICA 国際協力ネットワーク会議」を皮切りに、四国におけるネットワーク型 NGO 設立に向け協議が重ねられ、2004年10月29日、四国 NGO ネットワークが設立されました。SNN は各地に点在する四国の NGO に必要なことは「つないでいくこと」と考えており、①「NGO と NGO をつなぐ」、②「地域と NGO をつなぐ」、③「学生と NGO をつなぐ」という3点に力を入れています。

多彩な講師陣

本講座の講師を務めるのは、四国に拠点を置き、活動を続ける SNN のメンバーが中心です。アフリカ・ザンビアで医療支援を行っている徳島の TICO、カンボジアの教育支援・医療支援や地域でのボランティア活動を行っている香川県のセカンドハンド、フィリピン・ベトナムの農業者研修生支援、ルーマニアの医療支援を行っている愛媛の NGO、また、各県出身の青年海外協力隊 OB/OG、JICA 専門家・職員など多彩な講師陣を揃えており、学生からも高い評価が得られています。

講義実施によるインパクト

4年目を迎えた本講座ですが、受講した学生の間で新たな動きが見え始めています。講師を務めた地元 NGO のユース部門を立ち上げたり(徳島大学)、NGO が主催するスタディーツアーへの参加、受講者有志による国際協力サークルの設立(高知大学)、イベントやボランティア活動への参加がみられるようになりました。さらには、海外の開発関係大学院への進学、青年海外協力隊へ参加、国際協力 NGO へ就職した人もいます。講座受講により、学生にとっては国際協力について知り、四国の多様な関係者と繋がることができ、そして、それらを足がかりに「国際協力への参加—行動できる人」へとつながってきています。

担当する大学の教員は「地方だからこそできる強みを積極的に活かし、地方ならではの国際協力のあり方を模索してもらいたい」、「講義を聴くだけでなく、国際協力に興味・関心を持ち続け、授業で得た知識を活かして、ぜひ具体的な活動につなげてもらえればとても嬉しい」との声が寄せられています。

今後の検討事項

しかし、この講座も回数を重ねたことでより一層、創意工夫が必要だと思われることもあります。主だったものを以下3点、挙げてみました。

① 講師の多様化

「国際協力は特別な活動ではないこと。また限られた人だけが参加できるものではないこと」。このようなことを受講する学生には引き続き伝えていきます。「国際」と名の付く団体や職業だけが「国際協力」を実践しているわけではなく、一般市民や自治体、企業、教育機関関係者も直接的・間接的に国際協力活動に携わっています。受講した学生にとって身近な人たちも国際協力活動を行っていることを実感してもらえるような内容、講師を提供したいと思います。

② 企画・運営への新たな参画者

この講座はこれまで、SNN がコーディネートを務め、JICA 四国、大学の3者の連携事業として実施してきました。しかし、①で述べたとおり、国際協力のアクターは多様化しています。今後は地元企業やメディアとも協力関係を結び、発信力を強化していく必要があると考えています。

③ 講座終了後の学生の声—企画・運営の新たな担い手—

講座を受講した学生から、JICA 四国、SNN、大学が学ぶこともあると思います。大人では発想しないような企画が挙がるかもしれません。学生が本講座を受講したことによって次へのステップに踏み出したい

と思っているかもしれません。また、講座に対する有意義な意見をもっているかもしれません。私達は、学生にこの講座を提供するだけの一方通行ではなく、学生のニーズやアイデアを拾うことで、この講座の新たな展開の糸口が見つかることを期待しています。

このSNN、大学、JICA 四国の3者による連携事業も4年目を迎えました。次代を担う学生が、広い視野を持った人材へと成長する一助となるよう、様々な工夫を凝らし、学生に質の高い講座を提供したいと思っています。

JICA 四国は今後も SNN や大学などと連携して地域の国際協力の拠点づくりに役立つ事業、人材育成を意欲的に展開していく方針です。



講座の様子



JICA 研修員なども参加して、学生との交流を楽しみます。